

葛根田川・沢登り報告

【日 程】 9月14(土) 晴れ～15(日) 曇り時々晴れ

【山 域】 八幡平

葛根田川は八幡平を代表する沢登りルートだ。滝ノ上温泉から大石沢出合までは太い一本道(一本川?)だが、そこから上は放射状にいくつもの枝沢に別れ、それぞれが遡下降の対象になっている。柘植は40年以上前に乳頭山から大石沢を下降し、北ノ又沢を登ったことがあるが、その他の沢も辿ってみたいと思い、まだ遡行していない戸繫沢と中ノ又沢を組合せた周回ルートを計画した。

【ルート】 乳頭温泉～戸繫沢(下降)～葛根田川本流～中ノ又沢(遡行)～大白森・小白森縦走



【参加者】 CL. 柘植、SL 鈴木憲、石井、菌田

【コースタイム】

一日目 大釜温泉 6:50→蟹場分岐 7:50→(戸繫沢下降) 金堀沢出合 10:15→ミニナイアガラ滝 11:05
→ゴルジュ帯 11:40→大石沢出合 12:10→葛根田川出合 12:20(幕場) お函往復 50分

二日目 幕場 6:20→中ノ又沢出合 7:00→(中ノ又沢遡行)縦走路 9:50→10:10 大白森避難小屋 10:20
→大白森 11:20→鶴の湯分岐 12:20→蟹場分岐 13:10→大釜温泉 13:50

【記 録】

八幡平は遠い。前夜発で千葉を発つと仮眠時間をわずかしかとれず、初日がきついので、移動日を丸一日とって、山行初日は睡眠十分で乳頭温泉郷大釜温泉を出発する。ゆっくり登っても50分ほどで縦走路上

の蟹場分岐に到着。ここで沢支度をして2～3分下ったところから目ぼしをつけて右手のヤブに突入する。1分も歩かないうちに窪状に入り込む。最初は両側からのヤブが鬱陶しいが我慢して歩くうちに水がチョロチョロ流れ始めるとヤブ被りもなくなってくる。しばらく歩いていると前方が切れ落ちている様子。4m滝らしい。これを左岸から巻き下ると、沢は赤茶けた滑床となりだんだん葛根田らしい雰囲気になってきて嬉しい。水量がだいぶ増えてきたので、ちょっとした段差も兩岸を小さく巻きながら降りるようになってくる。比較的大きな支流が合流すると金掘沢出合であった。立派な看板にちょっと違和感あり^^



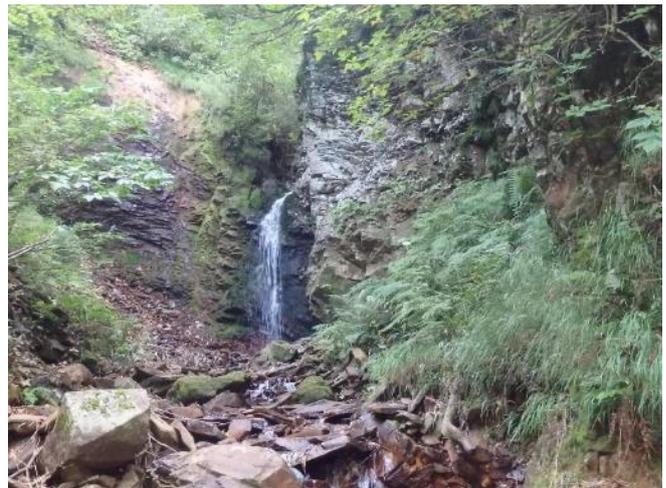
大釜温泉脇の登山道入口



田沢湖が背後に見えてくる



稜線上の蟹場分岐で沢支度



4m滝（右手から巻き下ってきた）



赤茶けた沢床はフリクション抜群



金掘沢出合にはなぜか立派な看板

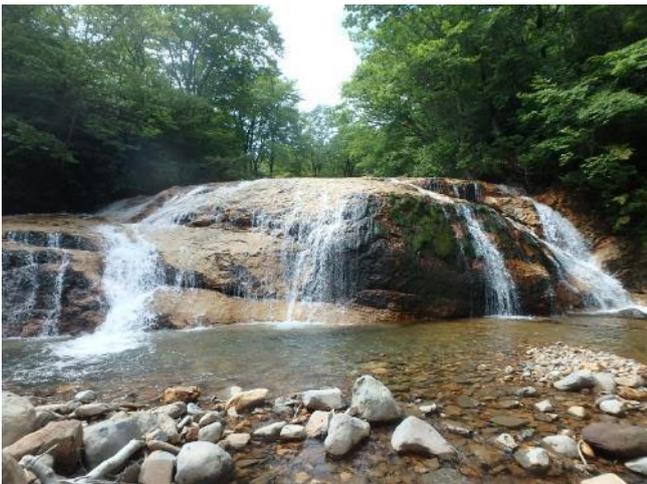
清々しい森の中の流れを快適に歩いていくと広い川幅が切れ落ちている様子。ここが戸繫沢第一の見どころのミニナイアガラのようだ。かわいらしいナイアガラは右岸にフィックスロープがあり、それを頼りにクライムダウンできる。さらに進むと癒し系の戸繫沢らしくないゴルジュが登場。事前に写真で見たときはどうやって通過するのだろうと案じていたのだが、たくみに弱点をついて突破することができた。ゴルジュを過ぎるとやがてなつかしい大石沢と合流、そしてまもなく葛根田川本流と出合った。



戸繫沢の穏やかな流れ



ミニナイアガラは右岸から下る



ミニナイアガラの全体写真



戸繫沢らしくないゴルジュ帯



慎重に左岸をへつり右岸に飛び移る



深い釜を右岸のへつりで通過



大石沢出合から下部の流れ

もう間もなく葛根田川本流出合だ

ここが本日の幕場だが、まだ時間も早いので、明日に予定していたお函見学に出かける。
お函は葛根田川本流の見どころということになっており、大石沢のすぐ下部一帯なので、空身で出かける。
以下お函のライドショーです。



幕場はやや傾斜と凸凹があるが、乾いた流木が豊富にあり、すぐ下の岩棚でたき火もできる。
今回は焚火名人はいないが、我々でも難なく火付けに成功。男性陣は持参のアルコールで酒盛りだが、もう一泊の予定があり、半分はとっておかないといけないのが恨めしい。明日は天気予報では八幡平は概ね曇り予報だが、できれば良い方向に外れてくれることを祈って18時半ごろには就寝する。



快適幕場

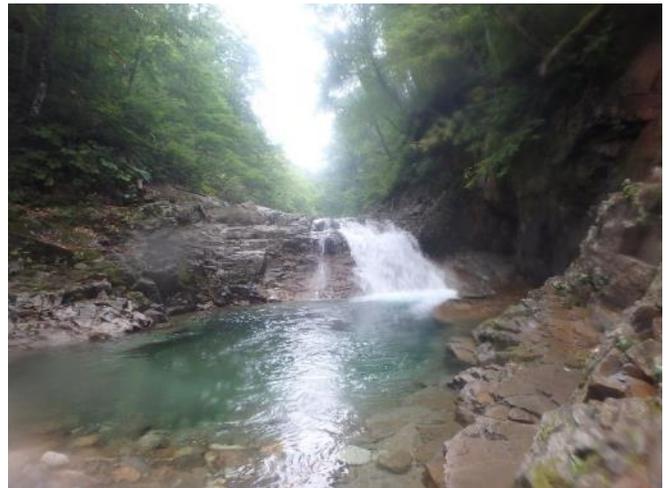


沢登りの至福のひと時

翌日は曇りではあるが、青空ものぞいており、まずまずの天候だ。本流の遡行なので、水量が多いと渡渉が大変でいやだなと少し心配していたが、川幅も広いので、渡渉も困難はない。30分ほどで出合う沼ノ沢は立派な滝をかけていた。ここから5分で中ノ又沢の出合に到着。ここには立派な幕場があると聞いていたが、一段高いところに広く平坦な極上幕場があった。ただ薪がほとんどなく、どちらがよかったかという大石沢出合というのがみんなの意見で、やはりあそこに泊まってよかったと思う。



朝の葛根田川本流の遡行



本流にかかる滝を快適に登る



沼ノ沢出合



中ノ又沢に入る

沼ノ沢から中ノ又沢出合はすぐだった。水量的には1 : 1くらいで、本流に負けない風格だ。中ノ又沢に入ると登れる滝の連続で楽しい。



中ノ又沢の小滝を登る その1



中ノ又沢の小滝を登る その2



中ノ又沢の小滝を登る その3



中ノ又沢の小滝を登る その4

ただこの楽しい時間も 15 分くらいで終了。あとはひたすら平凡な河原状を歩く。中ノ又沢から稜線に出るにはみな 999m 峰の東側の鞍部を目指すが、860m~870m 付近は平坦で等高線の間隔が広く、またここにいくつもの細流が流れ込んできているのでルートファインディングがとても難しい。我々も行きつ戻りつを繰り返して、ようやく目指す枝沢に入り込んだことを確認したときは心底ホッとした。



ツメのアスファルト道路のような沢床



ヤブを漕いで登山道に出る瞬間はいつも格別

稜線に出ると立派な登山道があると思いきや、足元に空間はあるが両側からヤズが覆いかぶさったマイナールートであった。整備された登山道しか歩いていない人は不安になってしまいそうな道？だ。それでもところどころにある赤布を確認しながら進んで、30分ほどで大白森山荘に着く。ここが本日の宿泊予定地だが、まだ10時20分なので、今日中に下山してしまうことにする。明日は曇り/雨の予報なので、このヤブっぽい山道は雨のなかを歩くのはつらい。みんな疲れてきてはいるが、下山後の美味しい食事やビールが元気を奮い立たせる。このルート上には大白森田代という高層湿原があり、まさに山上の楽園という感じなのだが、青空の下であればもっと感動したことだろう。



大白森湿原にのびる木道



花の時期はさぞきれいかと想像

小白森を過ぎるころに晴れてきたのは嬉しいのだがひたすら暑い。ようやく蟹場分岐にたどり着き、乏しくなった最後の水筒の水を飲みほして一気に大釜温泉まで下山した。



下山途中に眺める秋田駒ヶ岳



大釜温泉（ここで入浴）

葛根田川は癒し系の沢登りを楽しめる場所として有名だが、期待に違わずゆったりした沢登りを楽しめた。八幡平エリアではお隣の大深沢も多くの沢屋さんに支持されているそうなので、まだ一応歩けるうちに来年あたりは大深沢に行ってみたいなと考えている。

記録担当：柘植 秀樹